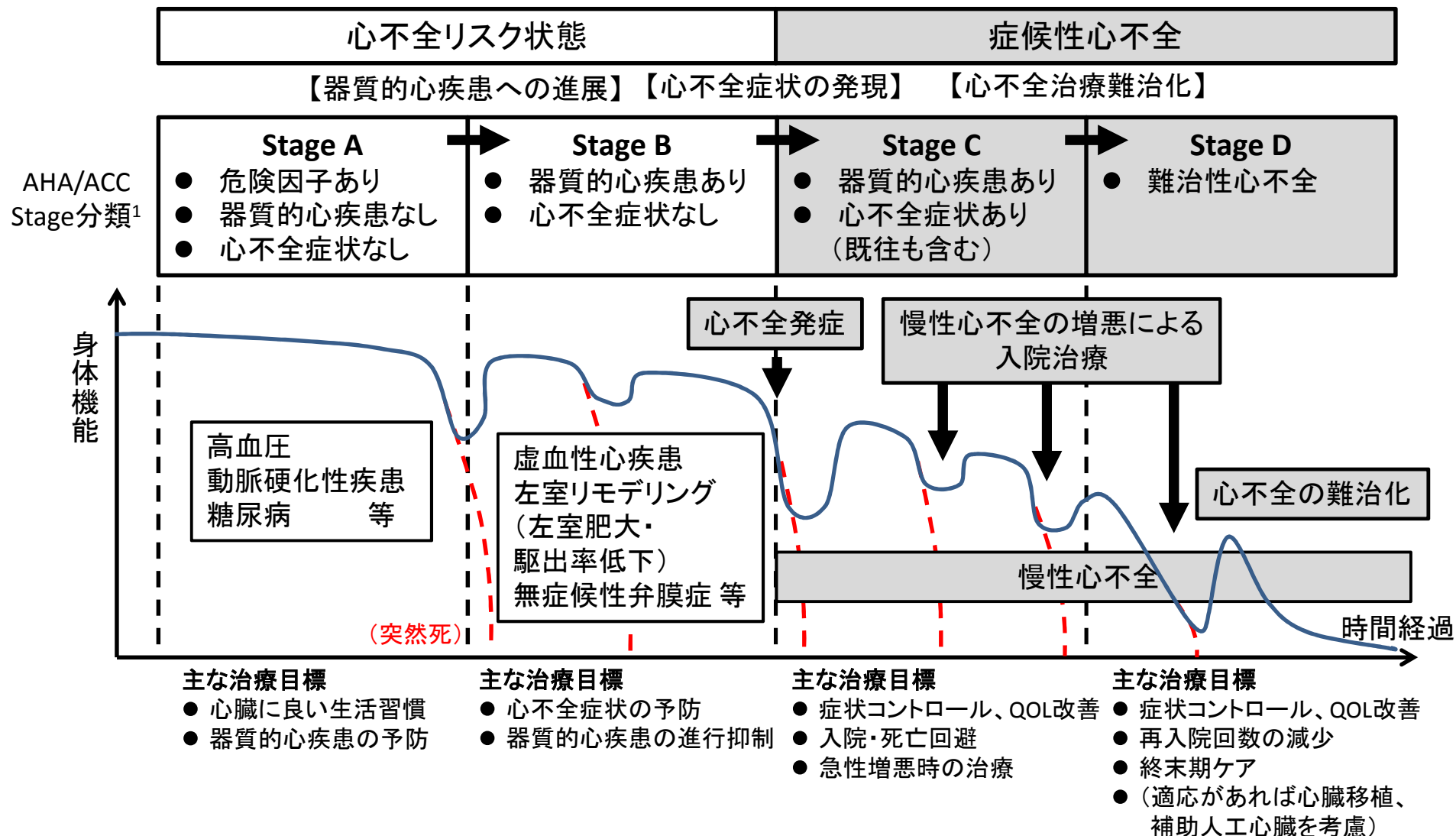


心血管疾患の医療提供体制のイメージ

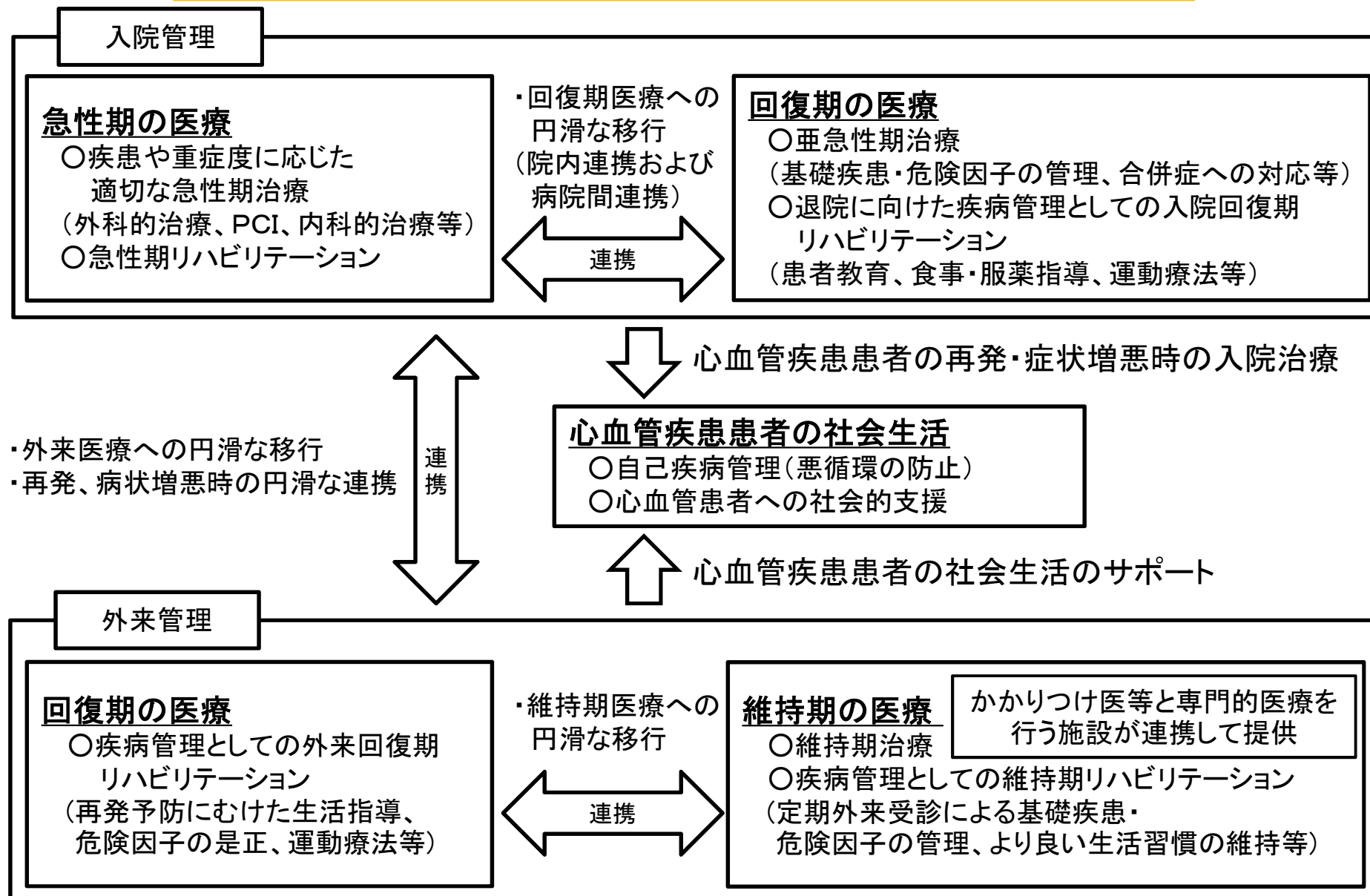
心血管疾患から心不全への臨床経過と 各ステージにおける主な治療目標イメージ



- 心不全患者は、無症状のリスク状態から症候性心不全へと進行・悪化を続けており、それぞれのステージにおける主な治療目標は異なる。

心血管疾患の医療提供体制のイメージ

患者情報の共有に基づく地域に応じた疾病管理



心血管疾患の医療提供体制の評価指標の考え方(案)

地域の医療提供体制に係る指標 (⇒地域全体の評価)

厚生労働省医政局地域医療計画課長通知における指標例 等

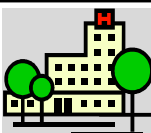
心血管疾患の診療を行う施設に係る指標 (⇒医療機能に応じた各施設の評価)



急性期の専門的
医療を包括的に
行う施設

指標の例

- ・緊急心臓血管外科手術件数
- ・血管内治療件数 等

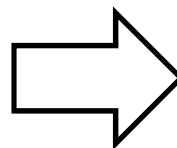


急性期の専門的
医療を行う施設

指標の例

- ・緊急PCI実施件数
- ・急性心不全受け入れ患者数 等

回復期への
移行



回復期の医療を
行う施設

指標の例

- ・入院および外来心血管疾患
リハビリテーションの実施件数 等

心血管疾患の医療提供体制の評価指標の考え方(案)

- 心血管疾患の医療提供体制の評価は、地域全体の評価に加え、各医療施設の役割が果たしているかの観点も必要なため、地域の評価指標に加えて、各施設に対する評価指標も必要ではないか。
- 各施設が担うべき医療機能は地域により異なるため、各施設の評価指標は地域の実状を踏まえて設定する必要があるのではないか。
- 具体的な指標を含め、評価指標については、引き続き検討していく必要があるのではないか。

現在の心不全の分類について

日本循環器学会ガイドラインにおける心不全の分類および定義^{1,2}

	定義
急性心不全	心臓に器質的および/あるいは機能的異常が生じて急速に心ポンプ機能の代償機転が破綻し、心室拡張末期圧の上昇や主要臓器への灌流不全を来とし、それに基づく症状や徴候が急性に出現、あるいは悪化した病態。 (新規発症や慢性心不全の急性増悪により起こるが、症状や徴候は軽症のものから致死的患者まで極めて多彩である。)
慢性心不全	慢性の心筋障害により心臓のポンプ機能が低下し、末梢主要臓器の酸素需要量に見合うだけの血液量を絶対的にまた相対的に拍出できない状態であり、肺体静脈系または両系にうっ血を来とし日常生活に障害を生じた病態。

慢性心不全のstage分類 (ACCF/AHA ガイドライン2013³)

心不全リスク状態		症候性心不全	
Stage A - 危険因子あり - 器質的心疾患なし - 心不全症状なし	Stage B - 器質的心疾患あり - 心不全症状なし	Stage C - 器質的心疾患あり - 心不全症状あり (既往も含む)	Stage D 難治性心不全

- 心不全には、幅広い病態が包括されており、各学会のガイドラインにおいて、症状の出現様式や病態の進行度等、異なる視点からの分類が提唱されている。
- 心不全の分類について、心血管疾患の医療提供体制の在り方を踏まえた上で、今後検討を行う必要があるのではないか。

1. 日本循環器学会 急性心不全治療ガイドライン(2011年改訂版) 2. 日本循環器学会 慢性心不全治療ガイドライン(2010年改訂版)
3. 2013 ACCF/AHA guideline for the management of heart failure Circulation. 2013 ;128:e240-327.

心血管疾患の医療提供体制の在り方を踏まえた心不全分類のイメージ

	無症状期	初回症状 発現期	慢性安定期 ↕ 急性増悪期	治療抵抗期
身体機能の 推移	心不全の進行			
想定される 主な管理方針	● 器質的心疾患の予防・進行抑制 ● 心不全症状の予防	● 症状の程度に応じた適切な心不全治療 ● 心不全原因疾患の評価	● 再入院予防にむけた日常管理 ● 急性増悪時には症状の程度に応じた適切な急性期治療	● 症状のコントロール ● 終末期ケア ● (適応があれば心臓移植、補助人工心臓)

- 心血管疾患の医療提供体制の在り方を踏まえ、想定される主な管理方針に沿った心不全分類を検討してはどうか。